

# 杉並区基本構想審議会公募区民委員 応募作文の概要

杉並区基本構想審議会資料

令和 2 年 8 月



## 1 作文のテーマ

「杉並区の目指すべき将来像について」（800字程度）

## 2 応募期間

令和2年4月1日から令和2年4月17日まで

## 3 応募状況（対象：区内在住、在勤・在学の18歳以上の方）

	人数	構成比
18歳～30歳代	11	12.8%
40歳代～50歳代	22	25.6%
60歳以上	50	58.1%
年齢不明	3	3.5%
合計	86	100.0%

※ 最年少18歳、最年長87歳、平均年齢60歳

#### 4 主な意見の概要

意見の分野	主な意見の概要
防災・防犯・危機管理に関する事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの命を守るため、想定される危険を丁寧に潰していくとともに、「自助・共助・公助」それぞれのレベルアップも必要だが、何よりも区民の「自助」意識を高めることが大切。避難所の充実も課題。</li> <li>○首都直下地震や水害への備えは課題だが、災害弱者を中心に区民から犠牲者を出さないための対策は最優先課題。要配慮者を災害から守るためには、個別の対策の必要がある。</li> <li>○区民と行政が一体となって危機に対応する準備を整備。災害時にリーダーとなる人材を育てるため、中学生から避難訓練参加を恒例として若者主導の体制づくりをする。</li> <li>○地域の顔が見えることは防災に非常に有効と考える。また、次世代を育てること＝防災の強化＝高齢化社会の対応、全てに繋がる。</li> <li>○「災害時にまちをどう守るのか」という課題には、「街並みを壊さず」防火防災装備を強化することに加え、地域コミュニティによる「地域防災力」を高める学習と訓練を重ね、消防行政からの指摘されることがない程度の「住民自治による自主的防火防災力」を強化することである。</li> <li>○神田川や善福寺川についての治水事業は大都市インフラのあり方として大いに評価できる。</li> <li>○「危機管理」を火災、地震だけではなくウイルス感染も含め運用を徹底するスピード感が大切だと思う。</li> </ul>
まちづくりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南北に「環七・環八」、東西に「青梅街道・五日市街道・井の頭通り・人見街道」という交通要衝で、利便性が高い反面、各大型幹線網によりコミュニティが分断され、同じ行政区域ながら住民意識の分断を感じることもあるため、分断の障害解決に取り組むべきでないだろうか。</li> <li>○交通アクセスの更なる整備や設備の充実で、幅広い年代の区文化施設・福祉施設利用促進に向けた体制を整備。</li> <li>○古い土地区画整理区域の指定が残されたままなど、適時適切に見直しが進められたとはいいいがたい。また、歩車道の区別のない道路の解消、公共交通空間の確保の必要性を考慮し、今後50年程度を見通した都市計画の再検討を進める必要がある。大規模降雨災害や地震、火災に対する防災面での強化も織り込む必要がある。</li> <li>○現基本構想の戦略的・重点的な取組みとして取り上げられた「荻窪駅周辺まちづくり」も種々取り組みをして来たが満足いく結果にはなっていない。</li> </ul>

意見の分野	主な意見の概要
まちづくりに関すること（つづき）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○無電柱化した都市計画道路は震災救援所への避難路、木造住宅密集地域の延焼遮断帯、消防活動困難区域縮小と重責を担う。計画的に都市計画道路と住宅不燃化、耐震化、狭あい道路拡幅やかつての細街路を復活整備すれば、町の基盤は盤石。</li> <li>○杉並区の目指すべき将来の区道は、区民が安心・安全に歩行できる歩道の確保である。交通量の多い狭い道路に面した商店街では、お客が遠退き「安全で活力ある」状況とは言えない。100年先を見据えた構想を基に、少しでもこれらを前進させることが重要な課題である。</li> <li>○杉並区は更なる住みやすさを求めて、物理的にも機能的にもスマートな都市を目指すべき。物理的にスマートであることは、区民が生活機能施設を回遊できるようなインフラを整えることだと考え、例えば、高齢化社会を迎える準備として、移動手段の拡充だと思う。</li> <li>○「杉並」という一言ではとても括れない、エリアごとの個性がくつきりとあることも杉並区の魅力だ。高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪……個性を編集・統括して外へと見せていく、発信することが自治体としての役割であろう。</li> <li>○通勤に便利だけではなく、居心地のいい商店街・身近で親子で遊べる空間等住宅都市としての機能の見直しが必要。駅を中心とした通勤を主体としたいわゆる駅勢圏の地域計画から、住宅を取り囲むみどり環境を地域の基軸とする計画への発想の転換を図ることが必要。</li> <li>○杉並区は都心のベットタウンとして発展してきた為、生産拠点というよりも、生活拠点との色彩が強い街だが、今後は多面的な人材を引き寄せるしくみを創造し、仕事をする場所、仕事場を提供する街としての発展が区に求められる方向性なのではと思う。</li> </ul>
子育てに関するこ と	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育ては、核家族化の進む地域とのつながりの希薄な社会では難しいことを実感した。子育ての先輩でもあるおじいちゃんおばあちゃん、子育て世代、元気な学生たちなど「地域のみんなで子どもたちを育てる杉並区」にしていきたい。</li> <li>○待機児童ゼロは、若年層転入定住の大きな動機付け施策である。子育て世代のための施設づくりと良好な運営。</li> <li>○保育施設数を増やすだけでなく、子供たちと保育士たちの心身の健康と幸福を考えた環境の保育施設の配備。</li> </ul>

意見の分野	主な意見の概要
子育てに関すること（つづき）	<p>○就学前乳幼児について、一般の保育所の整備だけでなく、病児・病後児保育施設の整備も必要。</p> <p>○「生きたい街」「住みたい街」の実現のため、産婦人科の充実、幼稚園・保育園の拡充、更に働く女性への支援を整備することで赤ちゃんの誕生を増やす。一方、青少年には経験豊かで時間に余裕のあるシニア層が支援し、現役親世代の負担を軽減できる世代間支え合いの仕組みを構築し、3世代家庭の実現を推進する。</p> <p>○活力のある社会にまず大切なのは若い住民であろう。かつて社宅が担っていた、子育て世代への安価な住環境の提供を区が積極的に行っていくべきではないだろうか。</p>
福祉・医療・衛生等に関すること	<p>○フレイル※予防の3本柱である栄養・口腔、運動、社会参加に関わる各団体が連携し活動をすすめることができれば、高齢者の健康長寿延伸が期待できる。</p> <p>○高年層対応の多様化において、手厚い福祉だけでなく精神面での独居高齢者対策なども多面的に必要。</p> <p>○杉並区において、この20年あまり、全く進んでいないのは、「高度医療機関」の整備ではないか。安心して暮らせるまちに必要な「高度医療機関」の整備、設置が必要。</p> <p>○健康問題(災害時も含め)は、年齢を問わず、健康づくり、予防、診断、治療、維持、介護、福祉等と、組織を超えて官民一体でワンチームで進めていただきたい。</p> <p>○今後も発達障害児は増えていく傾向にあり、子供のうちからケアして、大人になったら戦力となるような組織づくりが重要。</p> <p>○生きづらさを感じている人の相談を待つだけでなく、プライバシーに配慮しながら他組織等と連携して、受け止めにいく活動が必要。</p> <p>※フレイル・・・年をとって心身の活力（筋力・認知機能・社会とのつながりなど）が低下した状態のこと</p>
文化・芸術、スポーツに関すること	<p>○「豊かな文化芸術に支えられた子育てを実現できるコミュニティ」の実現。子どもは未来であり希望である。</p> <p>○アニメ産業の多さ、音楽活動の活発さ、日フィル提携、座・高円寺での演劇活動、荻外荘・大田黒公園等文化歴史等々がある。対外的発信により「文化の杉並」を際立たせる</p>

意見の分野	主な意見の概要
文化・芸術、スポーツに関すること (つづき)	<p>○中央線沿いは都内文化活動の先端を担っている、この伝統を受け継ぎ劇場、コンサートホールさらには小公園における野外コンサート会場などの立地の推進。また、これらは低料金もしくは無料で利用できるような工夫を施して、杉並区が文化の巣となるように試みる。</p> <p>○区は、個性ある商店街と独自の文化を形成し、文学、演劇、音楽、美術、映画、舞踊、アニメ、建築の多様な多くの才能が集まった。豊かな芸術資源と杉並区の暮らしやすい環境と無縁ではない。荻窪には音楽堂の杉並公会堂と演劇の座・高円寺が既にあるが残念ながら美術の専門館はまだない。</p>
産業振興、就業に関すること	<p>○民間企業を誘致し、協力を得る住民サービスの活性化は双方にとってメリットが期待できる。具体的には、防災・防犯における見守りシステムの構築。流通企業の協力により健康寿命延伸に向けたフレイル予防活動、市民公開講座の開催、官民連携による革新的な活動。</p> <p>○商業の発展は、生活に潤いを持たせ、心を豊かにし、明るくする基であるゆえに、最大限の援助を惜しまない施策が必要。</p> <p>○海外の有能な人材を地域の若者とともに協働させ、地域の特性、特産品等を活性化の起爆剤にしている自治体等を参考にした杉並区独自の産業振興の促進。来日外国人の中には日本での定住を望み、地域の活性化に寄与し始めている人たちがいる。</p> <p>○地域に根ざした歴史的文化遺産も然り日本らしい日常や商店をアピールする事で訪日外国人の観光地及び滞在地として需要を高めることができる。荻窪に日本の文化要素は凝縮されていると感じた。</p>
環境に関すること	<p>○みどり豊かな環境にやさしいまちについては、人にとってのまちだけでなく、私たちは廻りの環境から生態系サービス受け取っている。生態系を構成しているすべての生き物にとって生息しやすい環境が保証されることが肝要。</p> <p>○自然環境を生かした住環境充実と地域の商店街・スーパーマーケット、地元商店等との連携による地域に根ざした生活用品調達がしやすいまちづくり。</p> <p>○杉並区はいまだ生物多様性についての取組に本腰を上げていないように見受けられる。これからの杉並区は多様な生きものにぎわう、人も生きものも気持ちのいいまちづくりを目指すべきである。</p>

意見の分野	主な意見の概要
教育・人材育成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの一層の活用：区内のWi-Fi 網を整備して公的機関（行政、学校等）と区民とのネットワークを確立。</li> <li>○発達障害、学習障害児などのための学習支援、学童保育の充実。</li> <li>○不登校の生徒を受け入れ、学習や活動ができる場所が増えると良い。適応指導教室等での学習や活動を通して、将来のことを自ら考えることができる場を。</li> <li>○「次世代のリーダーや将来を担う子供達をどう育てるか！」頭が柔らかく吸収力の高い小中学校時代に沢山の刺激を与え、自ら学ぶ目標をたてられる次世代を育てるために区立小中学校を魅力的な学びの場に育てる。</li> <li>○地域のことを学び地域を愛する子どもたちを増やすことが、次世代を担う人材育成につながるため、学校教育現場の充実と自主性の尊重が求められる。</li> <li>○杉並区の未来を担うのは若い世代であり、彼らが住みよい街づくり、かれらが力一杯その潜在能力を発揮できる街づくりに焦点を当てた施策が求められる。困難な課題を担い、立ち向かえる「人づくり」こそが長期的な政策課題ではないか。</li> <li>○将来の杉並区を考えるにあたり、10年とは言わず50年、100年先を見据えた場合、人の育成、特に将来を担う「青少年の育成」が最も大切と思う。最も大切なのは「人、物、金」の内、「人」であり、環境に造詣の深い人材、IT、AIの専門家、更には将来を担う明るく健全な青少年の育成が、杉並区の将来像実現の要と思う。</li> </ul>
コミュニティ、人のつながりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢、性別、職業関係なく、様々な人々を迎え入れ、また彼らとの交流の場となるような区としてこれから発展していくことを理念に掲げることで、社会の変化を柔軟に受け入れることのできる杉並になってほしい。</li> <li>○町会・自治会に関心があるにもかかわらず未加入の区民が多いため、参加形態の変革が求められる。区民に呼びかけ、週末中心に活動するなど組織化すれば、近所で見守る体制の構築が出来るはず。</li> <li>○人口が増え続ける一方で地域のつながりは薄れ、近所に住む人の顔さえも知らないことが多くなった。地域のつながりの希薄化は社会的な孤立を生み出す。</li> <li>○町会・自治会に加入する住民は年々減少している。区全体では人口増加傾向にあるが、学生や転勤者・外国人・一時的な滞留者等が多く、地域の結集が弱まる一方で、地域との結びつきが弱い方でも地域コミュニティに参加できる仕組みを立ち上げて行く必要がある。</li> </ul>



意見の分野	主な意見の概要
コミュニティ、人のつながりに関すること（つづき）	<p>○少子高齢化と格差拡大で社会的弱者が苦しい境遇に置かれている。こうした課題を解決するためには、行政や町会など既存の地縁団体、NPO だけでは限界があり、行政は財源の減少と人員不足、地縁団体や NPO は高齢化や加入者減少という問題を抱え、十分に対応することは難しい。それをカバーするには地域住民の力を活用することであり、キーワードは人と人の「交流」だ。</p> <p>○区を目指すべき将来像として期待、希望することは、「若者の台頭」だ。若者が活躍するための土壌づくりを大人たちが行う必要がある。</p> <p>○区内にはすばらしい地域活動をされている方々がたくさんいるが。持続可能な活動になっているケースが少ない、区内の地域によって格差がある。地域人材の育成機能の充実と強化については更なる強化が必要と考える。</p> <p>○協働についてはいま一度「協働」についての認識を行政、区民 NPO 等団体、企業という枠を越えて共有が必要。その上で地域には協働の担い手となる多様な主体があり、それをネットワーク化するには地域資源の情報を把握し効果的にコーディネートできる人材（トライセクターリーダー）が必要だ。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響もあり、地域との関わりは今後より一層重要なテーマとなると推察する。ICT 化に遅れないよう高齢者を地域の現役世代がフォローする、次世代育成をシニア世代がフォローするなど、地域コミュニティで役割を分けて、支え合い、経済的意味合いに留まらない豊かな暮らしを実現していきたい。</p>
区の将来像の方向性について	<p>○杉並区は単なる人口密集地ではない 21 世紀型の街をつくらなければならない。人口密集地であることを活かして、困ったときは地域の誰かに助けを求めることが出来る街になるべきだ。豊かな緑と地域のつながりをもった未来の杉並区は高いレジリエンスを持つことになる。杉並区は、区民一人ひとりが胸を張って世界に誇れる先進的な 21 世紀型の都市を目指すべきだ。</p> <p>○若年層の転入定住そして高齢者住民層との融和、年齢構成のバランスの取れた近隣関係を作り維持する・・・この前提で初めて魅力ある将来像が描けると考える。</p> <p>○杉並は商住近接地域分散型。職業人・住民のハーモニーを強めていく＝「地域のソフト力を引き出す」が、大災害壊滅的被害を極力抑え、魅力的将来像を描くにあたってのキーワードの一つになるのではないか。</p>

意見の分野	主な意見の概要
<p>区の将来像の方向性について（つづき）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の基本構想の前提である少子高齢化等の課題はこれからの10年も変わらず。従って、「安全・安心」で区民が「支えあう」街づくりといった理念をさらに発展させていくべき。</li> <li>○新たな基本構想では、データに基づき検証してから議論を進めるべきと考える。これまでの基本構想の考え方で良かったものを残しながら、発展させ実現させるための目標に記述していくことがよいと考える。</li> <li>○区の土地利用は住宅系の用途が8割を占めている点や、かつて多かったみどりが減少傾向にあることから、将来像として長年「みどりの住宅都市」の基本的考え方が踏襲されている。今後の区の将来像は、「みどりの住宅都市」の基本的考え方は継続しつつ、昨今の情勢や課題に対応した方向性を踏まえる必要があると考える。</li> <li>○区の弱みを克服し、強みを充実させるためには、現在の基本構想の3つの理念である「安全・安心を確保する」、「住宅都市杉並の価値を高める」、「支えあい共につくる」を受け継ぎつつ、さらに、横串をさす手段、手法として、「多様な主体とともに進めるまちづくり（市民協働・公民連携）」、「データやICTを活用した区政運営」の観点を強くしてゆくことが大事である。</li> <li>○目指すべき将来像とは、現在及び将来にわたり発生する大小の課題を解決又は改善していく為の活動を継続していける“仕組みを”作る事にあると捉える。</li> <li>○100年続く杉並区を目指すにあたって、「若い世代の誘致」や高齢者が、健康に余生を過ごせるよう「人とのつながりを実感できる」施策の検討をすべき。</li> <li>○国連の持続可能な開発目標（SDGs）との結びつけた考え方が大切。</li> </ul>
<p>区政運営に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT技術の飛躍的な進化とともに、スマートフォンやネットを駆使する現代において、デジタル技術に取り残されている方々を救い上げる仕組みを区が率先して整備する。</li> <li>○若い人たちが夢とやりがいをもって活動していくことが、高齢者や子供たちにとっても「明るい杉並区」の実現につながる。</li> <li>○広報やホームページだけでは、十分な情報発信とはいえない。</li> <li>○日頃からアンテナを張って、自らの力で様々な情報を入手している人がいる一方で、情報に触れる機会の少ない人に、どのように杉並区の取り組みに関心を持ってもらえるかが課題だといえる。その実現のために多世代協働モデルを考えたい。</li> </ul>

意見の分野	主な意見の概要
区政運営に関する こと（つづき）	<p>○杉並区の将来を考えると、特に多忙で意見を表明する機会をなかなか持てない若い世代の立場を十分に考慮することが、重要であると考ええる。</p> <p>○杉並区は、行政が施策を定めているのではなく、地域住民の声を聞き丁寧に区民のため施策を練っている。「行政に任せて文句を言うまちづくりから、自分たちが行うまちづくり」、自らが考え行政と協働してつくるまちこそが住みよいまちをつくると思う。</p> <p>○すべての区民が、自主的に自分の街に興味を持ち、取り組める街。特に、杉並区の子どもや若者、そして社会的弱者が未来にオーナーシップを感じるために、政策形成プロセスに参加する仕組みが欲しい。</p> <p>○「ビジョンの方針に基づき実行し、強化していく」という一方的な提言ではなく、民間企業の力添えを受けて発展、民間企業との連携によるプロジェクト進行、企業誘致などができないか。民間企業の発想や行動力を活用した住民サービスの活性化は大変魅力的であり民間企業にとっても、自治体の影響力や信用度を活かしたブランディング活動は大きなメリットになる。</p> <p>○行政組織の構造改革という課題がある。AI を始めとして先進的なICTを取り入れて行政の実務領域を効率化し、「人にしかできない」分野に人材をシフトする取組が求められる。</p> <p>○企業との連携強化について、包括連携協定に準じた企業との協定関係を広げ、行政機能の一部機能を企業に担ってもらい、取組に当たっては、それぞれの団体の自主性を重んじ、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する」という現場力を重視し、運営すべきだと考える。</p>